

体育館用地が買えず 実現性が揺らぐのでは

答 見直す考えはない



問 令和6年度体育館関連予算4・9億円に、私は修正案を出し反対した。どの部分が執行され、何がどんな要因でできていないか。

都市整備課長 執行した業務は不動産鑑定及び物件調査である。用地購入は町が掲示した価格に地権者の同意を得られず、令和7年度に繰り越した。アドバイザリー業務は、用地未購入のため執行できていない。建設スケジュールに影響が生じる。

問 公共の用地を確保する時、一度決めた価格はなかなか動かない。私は、昨年度の当初予算でまだ早いと反対し

た。総事業費も補助額も採算性も分らない。そういう状況で理解が得られるかという視点も質疑した。試算がない中で、結果的にこういう結果を生んでしまったのではないか。

都市整備課長 事業について理解を得ていたが、その時点では価格は提示していなかった。価格の折り合いがつかないのが要因だと考える。

問 体育館用地が買えず、その遅れによって事業の実現性自体が大きく揺らぐ、例えばその必要性や有用性、採算性を担保した上で、適正な規模の予算であれば町民の理解は



照屋 仁士 議員

得られるかもしれない。53億円は確定ではないと町長からもあった。今ある建設計画を見直す考えはないか。



町長 見直す考えはないが、規模、事業費などは決まっていない。

財政の状況を見える形で示せ

問 昨年に続き今年度も財政調整基金8億円近くが取り崩された。今後の財政運営が心配されるがどうか。

企画財政課長 やむを得ない事情で取り崩すこととなった。

問 行政として投資的な経費に関する効果の測定、経済効果、数値目標が足りないのではないか。取り崩しをしてきた今だからこそ、しっかり財政の状況を数値目標を含めて測定効果について見える形で示せ。

企画財政課長 可能な限り分かりやすく示せるよう工夫したい。